

6月16日から18日までの3日間で行った一般質問では、13人の議員が質問に立ちました。

通告番号	質問者	質問事項	ページ
1	中尾 友二	①施政方針について ②男女共同参画社会実現への課題と道筋について ③持続可能な天草市での生活を支える第一次産業の役割について	P6
2	蓑田 康子	④天草空港愛称化について ⑤天草のさりーの利用促進について	P7
3	浜崎 昭臣	①交流人口の拡大、宿泊者の増加について ②出水駅蔵之元港間シャトルバスについて ③交通アクセス改善に向けた担当課新設について ④天草空港愛称化について ⑤天草のさりーの利用促進について	P7
4	吉田 修	①出会いの場の創出について ②天草市地域公共交通計画について ③デジタル地域通貨天草のさりーについて	P8
5	柳田 光芳	①三県架橋実現に向けて ②市街地でのイノシシ対策について ③障がい者支援について	P8
6	小川 圭三	①上下水道事業運営の現況と今後の課題・対応について	P9
7	下田昇一郎	①行政評価における成果指標の導入と成果連動型民間委託契約方式(PFS)の可能性について	P9
8	松岡 寿	①雲仙・天草国立公園指定70年周年事業に向けた取組について ②御所浦恐竜の島博物館開館1周年を迎えて ③本市のごみ処理施策の今後について	P10
9	五通 傑作	①本市の動物愛護の取組について ②雲仙・天草国立公園指定70周年の取組について	P10
10	五嶋 善彦	①「天草版地方創生への挑戦」について	P11
11	澤井 一富	①令和7年度施政方針について	P11
12	浜崎 義昭	①公共交通とコミュニティ交通について ②都市計画税の見直しについて	P12
13	宮下幸一郎	①農業施設の現状について ②RSウイルス感染症ワクチン助成について ③天草市全島フリーWi-Fiの島構想について	P12



雑節、シャトルバス、空港愛称化、天草のさりーについて

浜崎 昭臣 (政友会)

QRコードで質問の動画が見られます



男女共同参画社会実現への課題、天草市での生活を支える第一次産業の役割について

蓑田 康子 (日本共産党)



【牛深雑節について】

問 日本一の生産量といわれる牛深雑節の使用頻度を上げるために、飲食店・宿泊業者に対し補助金を出すことはできないか。

答 市内事業者が自発的かつ積極的に雑節を使用されるよう節等製造者連絡協議会の活動をバックアップする。

【出水駅蔵之元港間シャトルバスについて】

問 出水駅蔵之元港間シャトルバスの老朽化による車両の更新とルート変更を問う。

答 運行事業者へ強く要求するとともに、出水駅蔵之元港間シャトルバス利用促進協議会でしっかりと協議していく。

【天草空港愛称化について】

問 来年の雲仙天草国立公園指定70周年を機に「天草四郎空港」愛称化を再度提案するが。

答 天草空港利用促進協議会の団体の総意として賛同が得られたら、協議を行いたい。

要望 相乗効果を生み出すには複数の要素を上手く組み合わせることが重要である。

「天草四郎空港」への愛称化でネームバリューが高まり観光客が急増すると信じ実現を要望する。



▲天草エアラインみぞか号

【天草のさりーについて】

問 天草のさりーの利用促進のためプレミアムキャンペーンの実施はできないか。

答 天草のさりーは域内経済の好循環を図る大変重要な事業。今後さらなる利活用を図るために、強力に推進していく。



施政方針における「活力あるまちづくりの推進」の施策について

中尾 友二 (新風天草)



【天草版地方創生推進本部の設置について】

問 天草版地方創生推進本部の設置で支所の取組を強化し、支所を中心に新たな特色ある取組やアイデアが生まれると期待するが、市長の考えは。

答 持続的な地域活動を進めるためには、地域への思いが深い支所職員の役割が欠かせない。そのため、支所に勤務し支所業務と本庁業務を行う職員を4月から牛深支所に配置した。牛深支所で業務を行なながら本庁の地域政策課とオンラインで業務を行う。実績や課題等を検証し職員がより地域活動に取り組める環境整備を進めていく。

地域を支える大きな役割を担うのは、各支所の取組であり、6月30日には「天草版地方創生推進本部」を設置する。私(市長)が本部長となり、副市長、教育長、各部長、各支所長とともに、地域をどう守っていくのか、活性化していくのか、全庁的に協議・共有し、その実現に向けて取り組んでいく。

思いのないところに道は開けない。各支所職員はもとより全ての職員が地域と密接に関わり、地域を守りつないでいく人材を掘り起こし、人材同士をつなぐことで地域の魅力を再発見していただく。そして、自分が暮らす地域に自信と誇りを持つとともに、子どもたちにも「帰って来い」と言える暮らし続けたくなるまちをつくっていく。このような取組が「天草版地方創生への挑戦」である。



【天草市での生活を支える第一次産業の役割】

問 農業従事者数の推移は。

答 平成22年度から令和2年度までの10年間で47%減少している。

問 農作物の価格低下や自然災害による経営の不安定化などは、新たに農業への就農を考える人が断念する原因となっているのではないか。市独自の農作物の価格保証、所得補てん制度の創設は考えないので。

答 国レベルでの議論の動向を注視したい。



▲指導員から助言を受ける新規就農者